

定例公安委員会開催概要

1 開催日

令和 8 (2026) 年 7 月 15 日

2 開催内容

次の議題について、警察本部から説明・報告がなされ、決裁等が行われた。

■全体会議

【公安委員会から】

冒頭、委員から、

「昨日、バイクによる交通死亡事故が発生し、本年の死者数が昨年と同じ時期に比べ17人多い28人になったとの報道を見て、大変なことだと思った。自治体や関係団体も交通事故の未然防止に取り組んでいるが、やはり警察の取組が重要であり、皆が頼りにしていると思うので、引き続きしっかりやっていただきたい。また、夏は人出が多くなり、水に関する事故や凶悪な犯罪が発生しやすい季節だと思う。警察は多忙になると思うが、幹部の皆さんが声を掛け、一人一人が体調管理に気をつけながら県民のために活動していただきたい。」

旨の発言があった。

【警務部議題】

○ 令和 8 年県議会 6 月定例会の開催状況について

警察本部から、「令和 8 年県議会 6 月定例会の会期は 6 月 19 日から 7 月 3 日までの 15 日間であり、警察本部関係は議案 2 件及び報告 4 件であった。一般質問は 6 月 25 日から 6 月 30 日までの 4 日間行われ、2 名の議員から質問があった。主な開催状況であるが、一般質問 1 日目に希望いわて、北上選挙区の関根敏伸議員から、クマ駆除対応プロジェクトチームについて質問がなされ、本部長がクマ駆除対応プロジェクトチームの運用状況や課題、今後の対応策について答弁した。一般質問 4 日目に公明党、盛岡選挙区の小林正信議員から、地域の安全・安心に向けた取組の充実について質問がなされ、本部長が地域の防犯ボランティアの皆様と連携した取組を一層強化し、安全で安心なまちづくりを推進していく旨答弁した。

7 月 1 日、総務委員会が開催され付託議案の審査が行われた。県警の質疑対応は、警察本部提案の議案第 21 号「損害賠償議案」の審査過程において、いわて県民クラブ・無所属の会、一関選挙区の飯澤匡委員から、警察官が車両をけん引した経緯及び処分の有無について質疑がなされ、監察課長が答弁しいずれも原案どおり可とされた。議案審査に続くこの際質問では、自由民主党、紫波選挙区の臼澤勉委員から、「第 12 次岩手県交通安全計画」に示された指標のうち、飲酒運転による交通事故発生件数（15 件以下）について、県警察としての思いを伺う旨の質疑がなされ、警務部長が答弁した。

今6月定例会では公安委員の任命に係る人事議案が提案され、公安委員会委員の任命は警察法第39条第1項により都道府県議会の同意を得て県知事が任命することとなっているところ、先例に基づき、議会招集日10日前である6月9日に開催された議会運営委員会において、副知事から人事議案の説明が行われた。議案に対する質疑は、招集日前日の6月18日に開催された議会運営委員会において、日本共産党、盛岡選挙区の斉藤信議員から、「公安委員会の使命等と選任理由について」及び「県職員OGからの選任理由について」の質疑がなされ、副知事が答弁した。人事議案は6月30日の本会議に提案され、同日原案どおり可決された。」旨の報告があった。

【交通部議題】

○ 令和8年度交通規制の実施計画について

警察本部から、「交通信号機の新設を計画しているのは定周期信号機3基であり、北上署管内の「黒沢尻工業高校北東」は道路改良に伴う交差点対策のため、釜石署管内「天神町」は釜石市役所新庁舎建設に伴う庁舎利用者及び周辺の歩行者等の安全確保のため、宮古署管内の「希望のつなぎ橋東」は事故抑止や歩行者の安全確保などの交差点対策のために設置するものである。交通信号機の廃止を計画しているのは一灯点滅式信号機1基、押ボタン信号機7基の計8基であり、一灯点滅式信号機1基は盛岡東署管内の「地藏尊入口南」で、規制の合理化のために廃止し、廃止後は一時停止標識を設置して交差点の安全を図る。押ボタン信号機7基は、岩手署管内の「老人ホーム高砂荘前」及び「浮島小学校入口」、紫波署管内の「祭田」及び「高橋商店前」、岩泉署管内の「田野畑児童館入口」、「小本小学校入口」及び「小川小学校西側」である。小学校の閉校等により横断者数が減少したため廃止するものであるが、「小本小学校入口」以外は横断歩道を残して歩行者の安全を確保し、「小本小学校入口」は付近に地下道があるため信号機とともに信号機も廃止する。いずれの信号機も地域住民への説明や広報により理解は得られている。

最高速度規制は、最高速度60キロ2区間、最高速度40キロ1区間の計3区間を計画しており、最高速度60キロの規制を新設するのは大船渡署管内「BRT専用道大船渡線」で本年9月1日に施行される法定速度30キロ規制に伴うもの、最高速度40キロの規制を新設するのは久慈署管内「野田村道中平上明内線」で付近の学校の通学路対策のため新設するものである。このほか、横断歩道や一時停止など合計191件の新設、変更及び廃止を計画しているが、これらは交通部長の専決となる。」旨の説明があり、決裁をした。

○ 令和8年上半期の交通事故発生状況等について

警察本部から、「令和8年上半期の交通事故発生状況であるが、発生件数、死者数、傷者数とも前年同比で増加した。死者数は25人であり、前年同期比15人増で令和3年以降の6月末で最多、増加率は全国ワースト1位となっている。人身事故の増加要因は、1月中に追突事故が増加したことであり、降雪による悪路に運転者が適応できず、ハンドル・ブレーキ操作を怠ったことが要因の一つと考えている。

交通死亡事故の特徴であるが、死者のうち65歳以上の高齢者が12人で全死者の48.0パーセントを占めており、高止まりの状態が続いている。類型は車両相互の事故が12件で最も多く、前年同期比10件増と大幅に増加しており、中でも正面衝突が5件と目立っている。

また、車線逸脱による事故が8件で前年同期比5件増、二輪車が関係する事故が4件で前年同期比4件増となっている点も目立つところである。高齢ドライバー以外の世代による事故は19件で、前年同期比15件増と大幅に増加した。ドライバーの注意力や緊張感の欠落、安全確認の不履行といった漫然運転のほか、自身の運転技術に対する過信等が増加した要因と考えられる。

交通死亡事故抑止対策「アンダー30作戦」の重点推進事項に関する発生状況は、高齢者の関係する事故が318件で前年同期比で20件減少、飲酒運転による交通事故が5件で前年同期比で4件減少、自転車の関係する事故は死亡事故が2件発生したが全体では54件と前年同期比で23件減少していることから、各種対策により重点推進事項の取組は一定の効果が得られている。

次に、下半期の交通事故抑止対策として3点に取り組むこととしており、1点目は、上半期の発生状況と下半期の発生傾向を踏まえた「アンダー30作戦」を継続するとともに「夏の死亡事故抑止キャンペーン」を実施し、増加傾向にある二輪車の事故対策と国道での集中取締り、SNS等による印象に残る広報、ドライバーの緊張感を促すためのレッドフラッシュ活動等を関係機関・団体と連携して行う。2点目は、「職域対策」として、死亡事故の第一当事者の属する職域に着目した教育、指導を推進、安全運転管理者等選任事業所のみならず幅広い事業所に安全指導を行い、必要な人に必要な情報が届く取組を強化する。3点目は、「秋季以降における歩行者対策」として、秋季以降に歩行者が関係する死亡事故が多発している傾向を受け、事故分析に基づく重点地区での「在宅訪問指導プラス」や高齢ドライバー・高齢歩行者双方の安全意識を高める「目立つ街頭活動」を強化する。」旨の報告があった。

《 委員発言 》

「県や市町村、関係団体も交通事故防止に向けた意識啓発に取り組んでいるので、他にも連携できる団体等があれば輪を広げ、工夫を重ねて取組を進めていただきたい。」

「職域対策は効果があると思う。個人事業主への働き掛けのほか、常日頃から上司が社員に声を掛ける職場環境が作られるよう積極的に取り組んでもらいたい。」

【警備部議題】

○ 警察職員等の援助要求について

警察本部から、「7月26日に秋田県で開催される「第50回全国高等学校総合文化祭」の総合開会式に秋篠宮皇嗣同妃両殿下が御臨席され、秋田県警察においてお成り警衛を実施するところであるが、これに万全を期すため、秋田県公安委員会から警察職員及びヘリコプター派遣の援助要求を受けたことから、これに応じるものである。」旨の説明があり、決裁した。

【警察学校】

○ 初任科第101期学生の東日本大震災等被災地研修及び水難救助訓練の実施について

警察本部から、「本研修は、東日本大震災津波被災地における伝承教養、大槌町林野火災被災地における警察活動に関する教養等を通じて、災害対策の見識を広げるとともに、警察官としての誇りと使命感を醸成することを目的としている。

今回の研修等は、8月3日及び4日の両日、初任科学生を対象として震災等の被災地研修と水難救助訓練を実施するものであり、これまで、被災地研修と水難救助訓練は別個に実施していたが、今年は研修に海岸での水難救助訓練を組み込み、宿泊を伴うものとした。参加学生66名のうち、沿岸出身者は8名であり、当時の被災状況等を知らない学生が多数を占めることから、震災における警察活動等を学ぶ良い機会と捉えている。

研修及び訓練の内容であるが、大槌町の吉里吉里海水浴場においてライフセーバー指導員による水難救助訓練を行い、その後、同町内の林野火災現場を視察する。宿泊先の陸前高田市内「岩手県立野外活動センター」では、その日の訓練等の振り返りや意見発表等の研修を行う。翌日は、陸前高田市内の津波伝承館を見学し、大船渡署において署長訓示を受けた後、同署の若手警察官との交流及び意見交換を行う予定である。」旨の報告があった。

《 委員発言 》

「内陸部に住んでいる方々もそうだが、実際の被害の状況等を知らない学生もいると思う。足を運んで現地を見て、話を聞き、警察官として必要な訓練を行う今回の研修は貴重な学びの機会であるので、学生の今後の糧となるような研修等にしていただきたい。」

■個別会議

○ 留置管理課

留置管理課業務報告

○ 運転免許課

免許取消等処分関係に係る意見の聴取結果等の説明、決裁

○ 総務課

公安委員会あて苦情の受理についての説明、決裁